

明倫彙編  
雜考彙誌  
卷之九

特  
曾  
696  
106













○本夜分可平夜三時 大般若轉讀  
日廿三日  
廿四日  
廿五日  
廿六日  
廿七日  
廿八日  
廿九日  
三十日

○廿九日廿三日 授戒  
南存所 万持寺  
東山 嶽山 法石 院

○廿九日廿三日 授戒  
南存所 万持寺  
東山 嶽山 法石 院

○廿九日廿三日 授戒  
南存所 万持寺  
東山 嶽山 法石 院

○縣廳北道 水物 街 東角 年元 岩 前 橋 角 街

○海平年 光 房 王 好  
三 年 五 月 廿 日  
作 業 住 末 留

○三屋 少 名 中 氏 中 知 住 一 町 一 番 地 區 内 住 居 人 等

○大祭 正月十六日  
右 山 信 心 一 町 一 番 地 區 内 住 居 人 等

○正月 廿 九 日 廿 三 日 授 戒  
南 存 所 万 持 寺  
東 山 嶽 山 法 石 院



○十月廿八日 陽明所 〇 北園 蘇東軒 〇

○十月廿九日 陽明所 〇 蘇東軒 〇

○十月廿九日 清室 〇 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇

蘇東軒

十月廿九日 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇

○十月廿九日 蘇東軒 〇







是より力業方妙香業  
新居河上本務所  
唐中野山寺  
皇親國戚  
皇親國戚  
皇親國戚

御算  
御算  
御算  
御算

○信行  
御算  
御算  
御算  
御算

○子  
御算  
御算  
御算  
御算

○子  
御算  
御算  
御算  
御算

○子  
御算  
御算  
御算  
御算



















○行八九月以百部中為の種を以て  
○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て

○行出以送或る之月及利を以て  
○行出以送或る之月及利を以て











1774  
 1775  
 1776  
 1777  
 1778  
 1779  
 1780  
 1781  
 1782  
 1783  
 1784  
 1785  
 1786  
 1787  
 1788  
 1789  
 1790  
 1791  
 1792  
 1793  
 1794  
 1795  
 1796  
 1797  
 1798  
 1799  
 1800

1799  
 1800

1800

1800  
 1801  
 1802  
 1803  
 1804  
 1805  
 1806  
 1807  
 1808  
 1809  
 1810  
 1811  
 1812  
 1813  
 1814  
 1815  
 1816  
 1817  
 1818  
 1819  
 1820  
 1821  
 1822  
 1823  
 1824  
 1825  
 1826  
 1827  
 1828  
 1829  
 1830  
 1831  
 1832  
 1833  
 1834  
 1835  
 1836  
 1837  
 1838  
 1839  
 1840  
 1841  
 1842  
 1843  
 1844  
 1845  
 1846  
 1847  
 1848  
 1849  
 1850  
 1851  
 1852  
 1853  
 1854  
 1855  
 1856  
 1857  
 1858  
 1859  
 1860  
 1861  
 1862  
 1863  
 1864  
 1865  
 1866  
 1867  
 1868  
 1869  
 1870  
 1871  
 1872  
 1873  
 1874  
 1875  
 1876  
 1877  
 1878  
 1879  
 1880  
 1881  
 1882  
 1883  
 1884  
 1885  
 1886  
 1887  
 1888  
 1889  
 1890  
 1891  
 1892  
 1893  
 1894  
 1895  
 1896  
 1897  
 1898  
 1899  
 1900



Vertical text on the right edge of the page, likely a title or a note.

本局 元種痘所 西上月

正副小頭 一等書寫人 鄭善書人 二等書寫人  
如 圓口 肝美 四月五十一日 四 三月五十一日

愛 有 氣 一 身 大 區 一 人 表 月

<p>本局内 水野直喜 小川信成</p>	<p>白川早 鄭善局 堀原三朗 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>	<p>清水早 三善局 心同如雲 堀原三朗 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>	<p>陳高平 四善局 酒井保治 芝崎保治 長谷正直 中川正素</p>	<p>神木 五善局 長谷正直 中川正素 酒井保治 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>	<p>門前早 七善局 酒井保治 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>	<p>古後早 八善局 酒井保治 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>	<p>神戶所 九善局 酒井保治 山崎系綱 水野直喜 小川信成</p>
------------------------------	--	---	--	---	--	--	--

惣員一百十五人

Vertical text at the bottom right, possibly a signature or date.

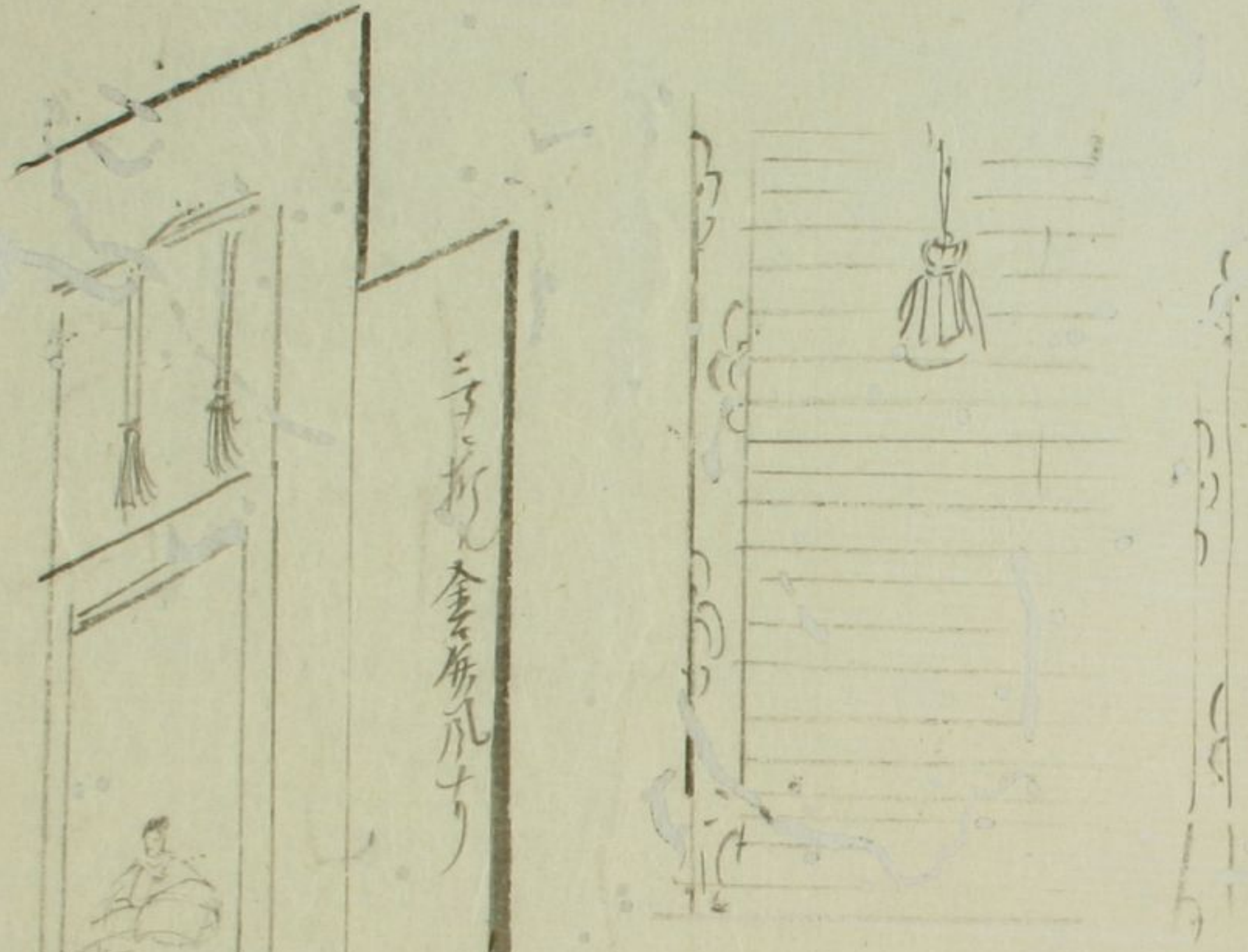




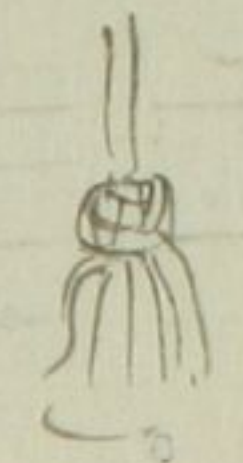








三子折金屋凡十ノ

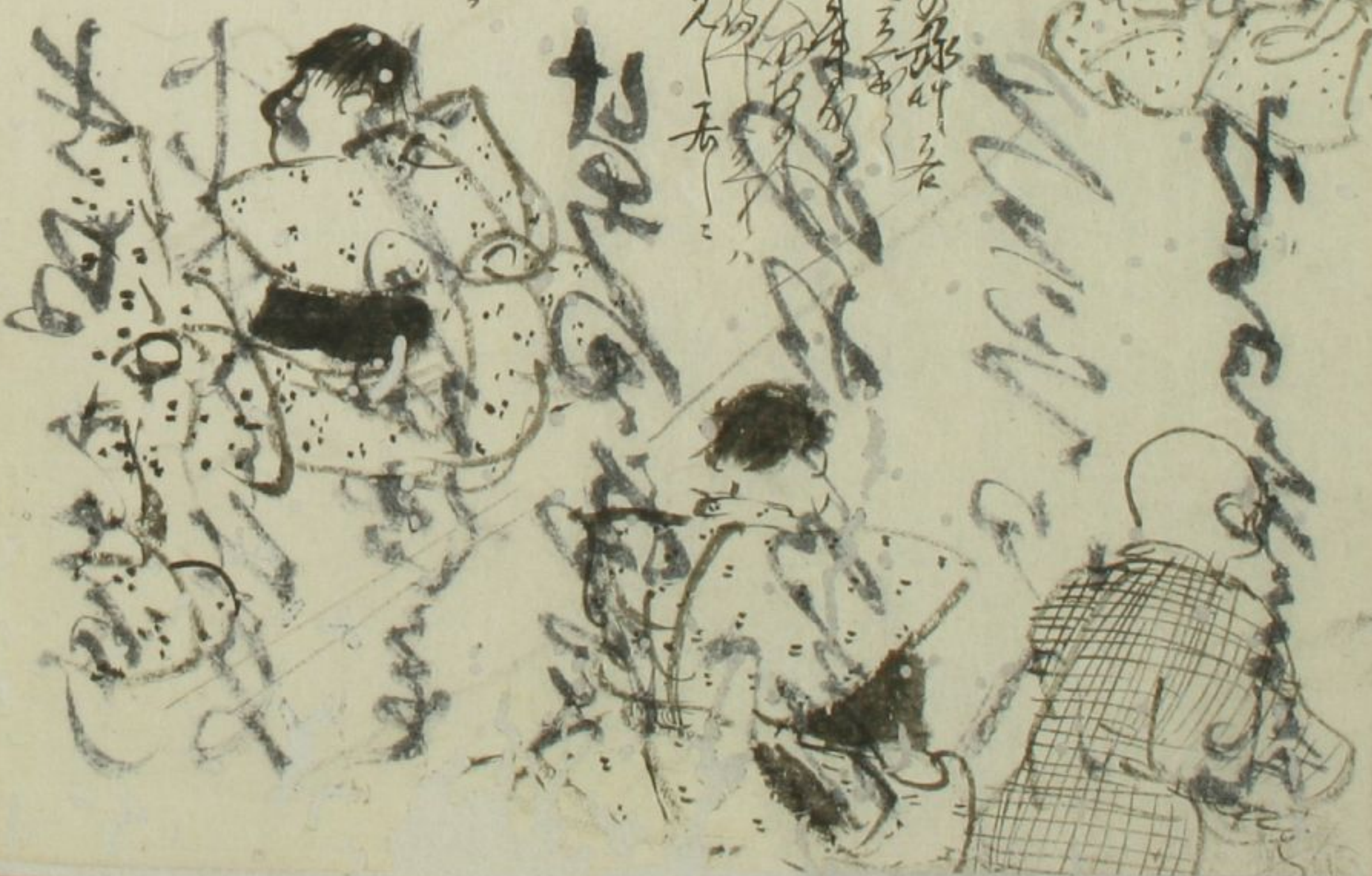


女中ノ影射天

此藥ノ中  
藥所ノ中

大光院の堂西之方  
長谷の寺の画像懸物  
東向の掛  
備物ハ圖ノ地ノ之基ニ  
神ノ枝ヲ敷テ備有之  
物アリキを云々

是善の御神  
自見  
代々  
又  
南歩  
た  
た  
た





























○予二十七日夜新羅の八のり 志水嘉徳書

華師の徳方性 徳方性 而己 師河澤源次郎

二年生花物 華師 大かまの徳方性 徳方性

表すの切 徳方性 柳葉師八揚 徳方性 徳方性

高師 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

體 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

夜も 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

○予月 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

○予月 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

侍 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性

徳方性 徳方性 徳方性 徳方性 徳方性























① 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
② 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
③ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
④ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑤ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑥ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑦ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑧ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑨ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...  
⑩ 此中... 何れ... 金... 買... 山... 書... 折...

素の美

○素の美の難紙 本件多々

大言

○大言の難紙 本件多々

○大言の難紙 本件多々

○大言の難紙 本件多々

○大言の難紙 本件多々



東系傳信白 手傳信白

東系傳信白

今手傳信白

山田行可

大傳信白

傳信白

甲辰新傳

蕪氣本

傳信白

傳信白

傳信白

傳信白

馬































Handwritten notes at the top of the right page, partially obscured by a piece of paper.

Handwritten text in cursive script, including characters like 丹, 山, 柳, 之, 袋, 打, 袋, 茶, 子, 丸.

Handwritten text in cursive script, including characters like 丹, 山, 柳, 之, 袋, 打, 袋, 茶, 子, 丸.

Handwritten text in cursive script, including characters like 丹, 山, 柳, 之, 袋, 打, 袋, 茶, 子, 丸.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page, including characters like 丹, 山, 柳, 之, 袋, 打, 袋, 茶, 子, 丸.



長安の地味は... 海濱の地味は...  
長安の地味は... 海濱の地味は...  
長安の地味は... 海濱の地味は...

美濃郡より山賊春彦

美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦

美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦

美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦

美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦

美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦  
美濃郡より山賊春彦



○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡

○ 櫻子 及 藤 乃 方 少 今 之 鏡























Handwritten text in vertical columns, likely a musical score or manuscript, featuring dense, stylized characters and some red markings. The text is organized into a grid-like structure with horizontal lines. The characters are highly stylized and appear to be in a cursive or shorthand script. There are several red dots and lines scattered throughout the text, possibly indicating specific notes or corrections. The overall appearance is that of a complex, handwritten document.

Handwritten text in vertical columns, continuing the dense, stylized characters and red markings seen on the left page. The text is organized into a grid-like structure with horizontal lines. The characters are highly stylized and appear to be in a cursive or shorthand script. There are several red dots and lines scattered throughout the text, possibly indicating specific notes or corrections. The overall appearance is that of a complex, handwritten document.







東京府

諸事按手難哉

東京府

二人集

Vertical columns of handwritten text on the right page, including names and dates.

○ 我之元以... 我之元以... 我之元以...

賜 使 在 此 者 耶

名 為 芳 華 之 女 也

○ 我 之 元 以...

色 食 兩 綿 此 三...

Vertical columns of handwritten text on the left page, including names and dates.















海外新聞

シヤツパンへアル新聞三週國ウイナ府博覽會... 中へ製造物進歩の爲ト記念鏡功績ヲ表スルタラ...

投書

方今捧太ノ事件ハ國家安危ノ機眞ニ憂ヘキノ形ナリ... 是以朝野紛紜、或曰拾シ或曰不可ナリ...

夫是以方今ノ上計ハ難シカサルニアリ拾シカサルノ計ハ分之二示スニ大ニ拓ヘキノ形ヲ張リ...

富強盛大河成サルヲ憂シ焉方今都下通シ治化文明ト稱スト雖...

島野權左衛門 固守造兵ノ一策次號ニ記スヘシ 貴社新聞近來新刊發兌ノ書目ヲ揭示スル...

村正利ナリ 余從來劇癖あり觀場の際常母懐心る演る處大概...

觀て狂そが如く且所謂眞なるものありて薪水... 婦の如く一時其ヒソミ母做ひ其醜体陋見る母堪...

報告

常銀行ノ備ハ條例成規ヲ遵奉シテ諸般ノ手續ヲ履... 爲ニ其文ヲ敬寫シテ以テ通テ世上ノ宏觀ニ具ス...

加藤職譯 新民社 版 商家必用 記簿法 初編 單認 二冊 既刻...

淺艸瓦町十六番地 本局 日報社 編輯者 市喜山景雄 印刷者 藤野傳平

第五百四十八號

明治六年十二月三日 晴 水曜日 寒暖計六十一度

雜誌年子遊藝子也群中... 三才圖十才十才十才...

新聞 潛シテ欺テ居ル通權ノ松...

建ノ肥多遊藝者連レシ時スラ馬鞍ニ綱ヲ附シテ...







而コレヲ覺ラス固ヨリ魯ノ掌握中ノ物危而且恐  
ルヘキナリ抑夫爾拓ノ道ハ難シ然ルニ方今ノ如キ  
區ノ微力ヲ以テコレヲ拓クト雖ハ一世世功ヲ成  
ス能ハス現ニヤ其國力ヲ計ラザルヤ雖ハ我人長  
辱ヲ後ル已ニ如此他日決メ其罪ヲ問ハザル可カラ

國母也且淫暴の事多く勸善懲惡名ありて實な  
き事を項守田座母太いて東京日々新聞の新技を  
觀る母其作意の工妙委枝の快活眞母方今の世態母  
契ハ欣然として弁當を喫まると忘れ只其の終る  
を恨めり或人曰く戲場は愚俗の大學校なりと眞母  
知言と云へし夫れ府下の俗男女老幼を問はば戲を

淺州瓦町十六番地  
本局  
編輯者 浦喜山景雄  
印刷者 藤野傳平

# 官許東京日々新聞

## 論說第一

となり

今方民間ニアリテ愚人ヲ誑惑シ人心ヲ害スル者亦  
多端ナリ乃チ因果報應ノ説アリ現世利益ノ説アリ  
祈禱靈符ノ説アリ吉凶禍福ノ説アリ周易八卦ノ説  
アリ蛇神狐廟ノ説アリ八相墨色ノ説アリ堪輿風水  
ノ説アリ修驗アリ先達アリ其他様々ノ者アリ理解  
ズベカラザルノ説ヲ唱ヘテ野郎村婆ヲ誑惑スル  
者甚多シ是等小事ニ似タリト雖モ亦大ニ政教ニ害  
アリ有志者アリト雖モ是ヲ如何トモスル事能ハズ  
空ノ傍觀束手シテ慨歎スルノミ然レハ是タシカ  
ナル教法無キガ故ナリ若シ確手タル眞教アリテ天  
下人心ノ方向ヲ一定スルニ足ル者アラハ人心一結  
シテ迷ハズ邪道ノ蠱惑ヲ受ルコトナシ如斯ニシテ而  
シテ後三人各々其人ノ人タル道ヲ行フ事ヲ得ベシ  
夫レ政ト教トノ車ノ兩輪ノ如シ政令ハ身ヲ動かカス  
ノ規則ナリ教法ハ心ヲ動かカスノ法度ナリ今善政ノ  
是ヲ令スル有リト雖モ明教ノ是ヲ導ク無ケレハ人  
心猶カノ邪道ノ蠱惑ヲ免カル、事能ハズ而シテ人  
ノ人タルノ道ヲ行フ事ヲ知ラザルニ至テハ又迷ニ  
野蠻ノ俗タルヲ免カレザルナリ故ニ曰は是等小事ニ  
似タリト雖モ亦大ニ政教ニ害アリト人高モ野蠻タ  
ル事ヲ免カレザル時ハ又隨テ智恵ヲ研キ物理ヲ窮  
ムル事能ハズ况ンヤ大事業ヲ起シ大國產ヲ盛ニシ  
スルノ事ニ於テヤ事業ヲ起シ國益ヲ開クノ原ハ  
人心ノ開ト不開トニアルノミ古來此等ノ邪説既ニ  
先人ノ主トナリ天下ノ人心ニ固結スル者久シ苛モ  
至大至明ニシテ信々々々尊ムベキノ眞教アツテ人  
心ヲ導テ以テ眞理ヲ審諦シ方向ヲ一定スルニ非ザ  
レハ難イ哉眞ノ文明開化ニ至ルコト

## 江湖叢談

上智は教ずして成下愚は教ゆと雖益なしと顔氏の  
語も茲母當れる事あり府下淺草元馬越谷村某  
云者あり元は舊幕の家士なりし由其子息は本年十  
二才れ其性書を讀むを好む義母近傍の學校母入  
りて生徒たりしが其教師選授して麻布母移れる時  
相從ふて麻布母至り懇の母其教を受しが故ありて  
閉接なせる母付自宅母歸りて在りしが昨三十日件  
の教師途中母於て買物をなさんと服の隠袋を探  
母如何なしげへ金貨あらざる母驚きいでて取落し  
たりげんと當感せしが不圖谷村氏が事を思ひ出則  
ち宅母至りて案内を請ふ母生徒たりし一子取次母  
出來一別以來の應答終り其情實を開兼て父より  
貰ひ得し金壹圓を出して師母與へたり然して其父  
其爲体を聞置圓は甚些少なり御人用程用立んとお  
りし母教師の云ふ厚志泰なしと雖御邊母拾圓借た  
るより御子息の壹圓こそ尊げれ是母て今の事足る  
なれば多くの金も何母かせんと厚く謝して戻りし

山梨縣母於て此度縣下へ會議所を設立せらる、布  
達書の寫を得たり左のごとし  
管地ヲ區分シ區戶長ヲ設ケ伍組ヲ編ム事○第一市  
中端ノ山間僻地ニ至ル迄御主意普ク貫通シ下情遺  
漏ナク上達シ無告ノ窮民ハ勿論不辛ニシテ產業ヲ  
失フ者ノ頹明カニ相分リ救助等速ニ行ハレシメ  
ナリ○第二無賴ノ惡徒盜賊等ノ取締ニ便サシメ  
不慮ノ災害ヲ蒙ムラシメ各安穩ニ生ラシメ  
シメガ爲ナリ○第三比隣相親ニ隣村互ニ相助ケホク  
管下安靜繁榮ナルヲ欲シテナリ○右ノ主意ナレハ  
向後令參事區戶長時々親シク相會シ管内繁盛ノ  
方法其他萬端相協議シテ人民ノ福利ヲ増加セシメ  
テ計ルベシ因テ此度會議所ヲ設ケ注意左ノ如シ  
一 區毎ニ凡中央ノ地ニテ會議所ヲ設ケ區長以下  
事ヲ議スル處トス  
● 但シ別段創設スルニ不及成ベクハ區内ノ寺院  
等ヲ以テ之ニ充ツベシ  
一 區内ノ事務ヲ取扱フニモ此所ノ用ニ  
一 令參事以下時トシテ出張區長戶長ト萬事ヲ議シ  
又上ノ意ヲ演述シ下情ヲ問フモ此會議所ニ於テ  
ス  
一 區中諸村ノ戶長集合シテ事ヲ議スル之ヲ用ユ  
右ノ旨意萬ク遵奉致シ示談ノ上早々取極可申別  
段修繕ヲ加フル等ノ義無之様精々實案ヲ旨トシ費  
用ヲ省キ極注意可致事  
此頃澳地利國ニ在留セル或人ヨリ來狀中ニ曰ハク  
橫濱海岸通ニ居タリシ或佛蘭西人ヨリ春ノコロ  
日本ノ若キ娘三人ヲ雇ヒ入レ澳地利國へ連レ行キ  
博覽會場ニテ日本風ノ茶店ヲ開カント企シガ日本  
ヨリ右博覽會へ出張ニ相成リタル官吏此事ヲ聞テ  
早速差止メラレシカハ止ム事ヲ得ズシテ彼ノ佛  
蘭西人ハ博覽會場ヨリ少シ離レタル處ノ山ノ上ニ  
新ニ家作シテ此處ニテ其三人ノ女ヲ店ニ出シ客ヲ  
引テ利ヲ得ント策ヲ爲セシガ彼ノ女トモ種々ノ困  
苦ヲ受シテ以テ又出張ノ官吏へ訴出タルニ付キ此  
節談判中ノ由ナリ  
○  
横濱本町通ノ西ノ入り口ノ橋際ニ新ニ立テタル石  
造ノ美屋アリ生糸改會社ナリト云又東ノハツレニ  
大ナル家ヲ建築セリ町會所ナリト云蓋シ物産ノ美  
惡ハ國ノ損益盛衰ニ拘ハル事ナレハ第一ノ國産ダ  
ル生糸ヲ入口ニテ改メ惡品ナキ様ニ吟味スルノ企  
ナラン但シ改メノ賃錢トシテ其高ヨリ幾厘ノ歩  
合金ヲ取り立ル法ナルベシ又何品ニ限ラズ外國人  
へ賣込ミタル節ハ必ク出口ノ町會所ニテ改メ  
受ケ其賣主ヨリ歩合金ヲ納ムルコト舊習改メ時ヨ  
リ傳ハリタル規則ナリ如此處ニ改メ所ヲ多ク設

## 物價日表

大野壹斗七升壹合矢ノ倉壹斗七升本石貳斗六合貳  
斗二合スリ立貳斗貳升貳合南都貳斗壹合中國白壹  
斗五升七合山家小儀壹斗七升五合肥後壹斗七升  
洋銀 六拾壹分七

第五百四十八號  
明治六年十二月三日 晴  
水曜日 寒暖計六十一度  
潮時滿 五時十二分

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50



海外新聞

○日本人ハ光陰ヲ疎ニスル哉

日本人ハ常ニ光陰ノ尙ムヘキニ注意セズ故ニ外國人ト商業ヲ行フニモ必ズ光陰ヲ大切ニスル事ナシ既ニ日本ト外國ト交際ノ始リタルハ十四年前ノ事ナリト雖光陰ヲ貴ブト云事無キヲ以目今稍ク其善キニ赴キシノ三更ニ意外ノ變革アル事ヲ聞カズ又外國人ハ之ニ反シ總シテ日用ノ世務毫モ時間ヲ怠ル事ナク若シ聊モ時日ヲ怠ル等ノ事アルハ之ヲ名ケテ不信不實ノ者ト蔑如セリ實ニ外國人ノ如キハ只管其光陰ヲ貴ビ時間ヲ省ク事ニ盡力ス偏ニ勞力ヲ省ク新器機ヲ工夫發明ナスニ異ルナシ然ルニ日本人ノ商業ヲ行フヤ夫等ノ事ニ注意セズ徒ラニ袖手傍觀スル者多シ又外國人ニ於テハ成ベク丈其事ノ迅速ニ辨タルヲ以テ當然ノ習慣トス若シ日本人ノ英國倫敦府ニ在留スル者彼國商社ノ馳騁刻苦スルヲ目撃シ直チニ其事情ヲ掲載シテ國內ニ公告セバ新タニ日本人ノ活眼ヲ開カシムルニ幾庶ラン蓋シ是迄テ外國人ト貿易ノ條約ヲ結ベル日本人ハ倫敦ノ舊時ノ事情ヲ傳聞スルノミニテ方今倫敦ノ日々繁盛ノ時態ヲ知ル者少ナク外國人ハ又其事ヲ忽規シテ聊モ日本人ノ爲ニ其事ヲ注意セズ故ニ日本ノ商人ハ斯ノ如ク蒙昧ニ流レシナラン又官途ニ拔擢セラレシ士族ニ於テハ如何ヲ知ラザレ共恐ラク迅速急進ノ事務ニ適スルヤ否嗚呼日本人ノ如キハ死生ノ大事ニ關スルモ敢テ其光陰ヲ貴ブベキヲ顧ミズ况ヤ平素百般ノ事ニ於テヤ蓋シ外國人ハ日本人ノ所爲毎度遷延遅ミスルヲ以テ便捷ヲ妬ムスルヲアリ我輩唯其クハ日本人ノ示後事ヲナスヤ更ニ遲延ノ習弊ヲ脱シ急ニ注意セラレシテ急進スル日本ハ其政府ノ失錯アルトテ、者破スル能ハズ故ニ縱ヒ事ノ危急ニ至レル事アリ共公然政府ヘ其旨趣ヲ懇訴激論ニ及ブ者殆ド稀也抑外國人ノ如キハ之ト異リ懸隔シ尙クモ其政府ノ欠典失錯アルヲ知ル歟或ハ商人等ノ妨害ニ至ルヲアレハ憤然大ニ沸騰セリ嘗テ橫濱ニアル外國人ノ屢々困迫スルモノ其一例ヲ舉レハ先鐵道ニ於テ物品ノ運輸大ニ遲緩シ又東京橫濱ノ間ニアル電信線ノ所置モ其宜キヲ得ズ又郵便ノ書翰ヲ送達スルノ定則ナキ是吾輩ノ毎ニ慨嘆ニ堪ザル所以也然リ而シテ内地ノ人民何如ナル旨趣更ニ其恐懼ヲ覆藏シ陰忍以テ沸騰ヲ醸スニ至ラザルハ殊ニ異レムベシト云

投書

ニ番發勉強スレドモ未ダ大洋ヲ乘廻シ他國諸港へ碇泊シテ他ノ船トト附合萬端中ミ出來來ルナリ旗章ノ揚御シ號管ノ接擲等兇角不都合多シ重掛リノ人五ニ我流ヲ言張ル故士官部屋毎々折台スナリ夫レ故此節ニ船中ノ見廻テ少シク航海術ニ馴レタト見ユル人ヲ乘組セルト前ノ掛リノ人達ハ船ヲ下リル事トナリ是ハ矢張航海術ノ折合ヌカラノ事ナリ甲ハスチーボルト云ヘバ乙ハバクボールト云フ中々此様ニ楫ノ取方ガ異論アルユエ萬一大颯浪起ルカ往々暗焦ニ當ルカト乗組ノ客ハ實ニ心配ノナリ一命ハ勿論身分相應ニ皆々荷物ヲ藏セテ此船ニ安心シテ居ルナレド案シ過テハ食物ガ咽ヘ通ラスナリ余リホト海上ニ漂泊シテ針路ガ定ラズバ速ニ他ノ船將ヲ頼ムカ又ハ客モ他船へ乗替ラント言フモ計ラレスナリ呼聲航海中ハ五ニ協和シテ意地ヲ張ラヌ様ニ在リタシ此船モ本來ハ御客ガ事ト謂フ處ヘ氣ヲ付テバアラス斯言フモ此船ヲランドルノ隅ニ濟ンテ款テ居ル逆標ノ松右衛門ナリ

前號島根氏投書ノ未完

固守○軍國ノ要ハ兵衛器械ノ古今勢ヲ異ニス城郭用ルニ足ラズ是方今ノ通議也拙子以爲ク特ニ之レ進テ戰ヒ退テ守ノ利ヲ論ズル所以ニ非ルナリ夫戰守ハ時ニ臨ミテ施ス所ノ方策アリ古今何ゾ預シ今ヤ守禦ノ利ヲ捨テ不用一旦寇寇卷地テ來ル其土崩瓦解セシトテ恐ル夫地ニ科口アリ泉響ニ海ニ達スル能ハズ州ニ城郭險要アリ敵碎ニ其邦ヲ亡未スニ到ラス此ヲ以テ陸ヲ守ハ險ヲ守ニ若シ險ヲ守ハ城ヲ守ニ若シ兵法曰戎狄ノ性貪利ノ來テザルヲ恃ム可ラズ正ニ我ノ備アルヲ恃ムベシト日本ノ世界ニ於テル一粟粒ニ過ギズ宜ク今シテ外ハ備ルニ軍艦砲臺ヲ以シ内ハ守ニ城郭險要ヲ以シ進テ戰ヒ退テ守ノ利ヲ計ル可シ守備已堅クハ敵國何ゾ恐レシ險ヲ捨テ城ヲ毀ハ國家ノ長計ニ非ルナリ故ニ一州トトニ一堅城ヲ設ケ樓櫓ハ勇ルニ土石ヲ以シ守禦ノ製較古ニ變用スベキノ今ヤ鎮臺以テ道ノ兵ヲ總統シ分營以テ一州ノ兵ヲ團結ス眞ニ軍國ノ要ナリ又之ニ増スニ城郭ヲ以シ内外嚴密ナレハ一旦寇アルモ或ハ城守シ或ハ險要ヲ拒ギ外援應ヲ求メ内謀策ヲ回サハ堅甲利兵モ恐ルニ足ラズ况ンヤ兵ハ詭道ナリ何ゾ奮ニ野戰ノ法ノミニニ效ハシ造兵○兵ハ存亡ノ機治亂ノ分邦ノ司命ナリ其用募ノ道難シ多ケレハ則官其費ニ勝ヘズ寡ケレハ則勢乏シ久暴シテ不收不用則變生々事ニ臨テ俄ニ募レハ則鈍弱紛亂其用ニ勝ヘズ拙子請フ其策ヲ言ハシ天下稅租ノ戸數ヲ計リ凡五家ヲ以テ一小連トシ内一壯丁ヲ選デ以テ兵トシ限ルニ年月ヲ以シ其期已ニ滿ス則又其内一壯丁ヲ選デ以テ之ニ代署セシメ征後ノ際官其費ヲ給シ平時ハ惟機銃銃具ノ外ハ衣食ヒ妻子ノ俸盡ク五家ヲ以テ供養セシメ官其費ヲ計リテ五家ノ輸入ヲ減消スベシ且其下没後妻孥子アル者ハ猶其五家ノ供養ヲ廢セズ別ニ又一壯丁ヲ立テ官又其五家ノ輸入ヲ減消スベシ平時彼本營分

報

營ニ備ル兵ハ凡一連ノ兵五萬ナレバ毎年凡一萬ヲ以テ遞番セシメハ五萬ノ實アリ費ス所ハ總シ一萬ノ用ノミ且夫レ暴ヲ戒メ義ヲ勵スニ五家ヲ以シ隊ヲ整ヘ教練スルニ分營ヲ以シ民兵情和シ相凌ノ意ナク兼テ寇賊ノ害ヲ防消シ且其人自ラ身後ノ計ヲ顧メテ專ラ命ヲ國家ニ致サン此乃所謂兵ハ先勝而後戰ヲ求ノ術也夫五家ニ一兵勝テ天下ノ兵勝テ用ユ可ラズ一丁亡シテ又一丁ヲ立ツ天下ノ兵勝テ究ム可ラザルナリ造兵ノ法眞ニ之ヨリ便ナルナシ海陸ノ備ヘ只上ノ選ム所強弱精鈍只將ノ任スル所ノミ大如此シ國中常備ノ堅兵概テ常ニ五六萬勢正ニ萬邦ニ輝震シ宇内ニ蟠踞スルニ足ルベシ

島野權左衛門

五百四十一號ニ老杉氏ハ騎者ノ爲ニ道兩三馬繫杭ヲ設ケントテ微スト云五百四十五號ニハ新太氏之ヲ駭シテ僕ヲ連ヨト云フ予傍見スルニ之ヲ貴ニ例スレバ海陸武官驍砲兩兵驍ヲ以テ公用ヲ奉スルモノ之ヲ賤ニ例スレバ主人ノ馬ヲ牽ク駭卒荷物ヲ歌送スル馬郎何ゾ各々僕ヲ攜フルトテ得シヤ昔日封建ノ世多夥從者ヲ連レシ時スラ馬鞍ニ綱ヲ附シテ繫着ノ用ニ備ヘ此綱ヲ小仲間ト名ヅク蓋シ僕ニ代ルノ謂ナリ未開ノ世ニ此綱ヲ創スル智者アリ開明ノ世ニ老杉氏ヲ罵ル新太氏アリト投書スル者ハ昌本某ナリ

官東京日々新聞

公聞 第三百九十五號 郵便六錢切手左ノ雛形ノ通製造シ來明治七年一月

第五百四十九號 明治六年十二月四日 晴 金曜日 寒暖計六十二度 潮時滿六時

類書面を捲へし文言中田左衛門歸商團之通開届 け爲生産本資額高五ヶ年分下賜候事壬申二月京府と偽作し遂身飯田町二丁目目田藤吉より金百五十圓借用の手續となりたれば前書身猶又先力疑

淺艸瓦町十六番地 本局 日報社 編輯者 二浦喜山景雄 印刷者 條野傳平

大藏省紙幣寮 第二番 開業免狀 攝津國大坂第五國立銀行ヨリ差出タル證書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ノ公債證書ヲ引當トシテ紙幣ヲ發行シ之ヲ引換ユル儀ニ付明治五年八月五日大日本政府ニテ制定シタル銀行條例ノ趣意ニ從フテ創立シ其開業前ノ手續ハ都テ此銀行條例ノ規則ヲ履行シタルコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今銀行條例ニ從テ銀行ノ業ヲ営ムコトヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ明治六年九月七日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シテ爰ニ姓名ヲ自記シ官印ヲ鈐スルナリ 明治六年九月七日 紙幣頭從五位常陸顯正











海外電報

○普魯西國ノ大臣黜陟ノ變革ヲラントノ勢アリ則  
ボナルウン 及ドニスグスマーグ 二人ヲ退職セ  
シメ ビスマーグ ヲ議長長官ニ任セラレントノ  
事ナリ

○佛ノマルシヤールマクモホン自ラ云ヘテク余長  
ク我が官職ヲ保有スルノ自由ヲ得決シテコンソ  
ルベチーヴスト相離レザルベシトコンソルベチー  
ストハ在來ノ政体ヲ保護スル人ト云フ意ナリ  
○此度日耳曼帝國ニ至レリ是ニ因テ兩國間全  
和親ノ域ニ至レリ

○西班牙國ノ商船數艘賊船ニ奪ハレタリ此賊船ハ  
ベレシヤル 出帆シカサシナニ行キタルナリ  
○荷蘭ニテハ議院中格別ノ事ナシ元帥ハ今以テ  
欠員ナリ

○伊多利王ベレルリンヨリ歸リ十一月廿九日トウ  
ソニ着シタリ  
○アシヤンテ一戰爭ハゴールド海岸ニ於テ英國軍  
兵并アシヤンテ一軍兵共ニ別隊ナシ唯海岸船艦  
ノ出入ヲ禁止シタリ其故ハ佛國及ビ米國ノ軍船火  
藥ヲ土人ニ販賣セシコト發覺セシニ因レリマタソ  
ルガ一子ツトウオルセレー人及ビ其下役等マデテ  
ニ至ルニ面白ラス航海ヲナシタリト其緣由ハ船  
ノ善美ナラザルニ起レリマタロウヤルイニチチ  
ールス分隊ハ鐵道設置ノタメ出立シタリ總テ此度  
戰爭ノ用意海軍ノ備具等遠征ノ兵糧ハ十分ナリ而  
シテ西印度ノ土著ノ勇兵ニ大隊アシヤンテ一戰  
ノタメニ用ヒラレタリ

○魯西亞ニテサカレンナリノ地ヲ押領セントシテ  
其タメ日本政府ト魯西亞トノ間ニ凶事アラントス  
ルトノ評判傳ラナリ  
○日耳曼ニテハ此節集會議員選舉ノ最中ナリ

投書

貴社新聞第五百四號ニ改定律令條例中第七十  
二條第二十三條ノ兩條ニ就テ眞齋先生ノ疑團  
ヲ拘クノ一章アリ余亦其始先生ノ説ノ如ク謂フク  
此二人ノ爲ス所同シク是人命ヲ害スルナリ而シ  
テ父祖ヲ殺ス者ヲ討殺スルト姦夫ヲ殘害スルト其  
間同視スベカラザルナリ是智者ヲ待テ然ル後ニ知  
ルニアラザルナリ然ルニ其罪ヲ擬スルニ至ツテハ  
警ヲ復スルハト慎ヲ違フスル者ト反メテ輕重ノ差  
アリテ其權衡ヲ失スルアリト疑ヘリ既ニシテ而之  
ヲ熟考スルニ大ニ然ラザル者アリテ存セリ我國從  
來ノ風俗ニ人ヲ殺スノ大禁ニシテ人ヲ殺ス者ヲ罰  
スルノ公權ナルヲ知ラズ以テ父兄ノ爲メニ警ヲ報  
スルヲ人ノ子弟タル者ノ義務トシ其甚キニ至ツ  
テハ往々理ノ當否事ノ故誤ヲ問ハズ只ニ名義ヲ挾  
ンテ相構害スルノ弊アリ云々ヲ以テ本年二月中政  
府之ヲ痛禁セリ夫瑣末ノ弊ヲ改メント欲スルモ猶  
一令一諭ノ及ブ所ニ非ラス况ヤ我國復讐ノ原アル  
私義ヲ以テ公權ヲ犯スノ非タルヲ察セズ之ヲ稱シ

テ美談トナス是千古ヨリノ弊習ニシテ尋常瑣末ノ  
弊ヲ以テ之ヲ日スベカラス是政府ノ以テ人民ニ懲  
レ諭告スルノミナラズシテ猶且ツ之ヲ國家ノ法典  
ニ掲ゲ人民ヲ誘導スル所以ノ者乎然ラハ則チ姦夫  
ヲ殺死スル其罪ノ輕キハ尋常法ヲ立ルニヨリ父祖  
ヲ殺ス者ヲ殺スノ罪ヲ重クスルハ一時矯正ノ權ニ  
出ルヲ察スルニ足レリ然リ而シテ余ノ言フ所モ亦  
一時ノ態度ニシテ先生ノ疑フ所也ノ經常ト云ハ  
手共ニ猶政府深意ノアル所ヲ洞知スル能ハザル者  
ナリ敢テ之ヲ新聞餘白ニ掲シテ先生ニ告ケ且ツ江  
湖賢哲ノ高論ヲ請フ者ハ南總ノ迂人現下橫濱ニ寄  
留スル園田某ナリ

政令一致セザレハ民心一ナラズ民心一ナラザレハ  
國治マラス維新以テ還藩ヲ廢シテ網一括シ府縣ヲ置  
テ令四達ス政ト云ヘハ大政官兵ト云ヘハ海陸軍制  
度兵權一途ニ歸シ治國ノ大本是ニ於テカ確乎不拔  
ナリ苟モ國家ニ志アル者誰カ欽抑セザランヤ然リ  
而シテ縣政ノ如キ猶或ハ隔靴ノ歎無キニ非ズ其レ  
學授ノ如キ度會縣下ハ僻邑偏隅ニ迄ルマテ設立ア  
ラザル所ナク參事若クハ屬或ハ學官取給等互ニ巡  
廻シ勸禁至ラザル處ナシ加フルニ邊式註違罪目條  
例ノ如キモ區區長學授等ニ委シ諄々説諭シ人民ヲ  
シテ法律ノ犯ス可カラザルヲ知セシム我縣下ノ  
如キハ小校アリト雖モ各方ニ偏子カラズ加フルニ  
縣官ノ巡迴懲罰アルナク往々衰頹ノ景況アリ從  
前ノ私塾依然トシテ存スルアリ或ハ我邑ノ如キ私  
塾ヲ廢スレバ小校ノ設ケナクシテ知識ヲ播達ス  
ルノ兒童ヲシテ空シク光陰ヲ嬉戲ニ消セシム或ハ  
令ノ如キモ識識周テカラズ故ニ未ダ舊慣ヲ脱セ  
ズ人ノ自由ヲ妨ル甚シク偶然邊式ノ罪ニ陷ルアリト  
雖モ自カラ知ル能ハズ其妨害ヲ受ルモノモ又甘  
シテ之ヲ責ルナシ愚民齊シク相告テ曰某ノ縣下ハ  
斷髮ノ令等之レ無シ我縣特リ無用ノ舉履アリト  
喋ミ口ヲ極メテ 御政體ヲ誹議ス是恐クハ政令岐  
分シテ民心一ナラザルノ徵カ民心一ナラザレハ國  
治マラス願クハ各縣ヲシテ政令岐分ノ弊無ラシメ  
ンテ江湖ノ諸君ニ質ス

三重縣下伊勢國半田村農 奥 田 八  
近日三州近傍ノ風説ヲ聞クニ大藏省ヨリ下渡ニナ  
リタル公債證書ヲ縣吏私ニ秘藏シ其利多キモノヲ  
撰ンテ手ヲマハシ之ヲ買フモノアリ民間頗ル其東  
縛ヲ憂フトイヘ其威ニ恐レ之ヲ如何トモスル  
能ハズ大ニ金銀ノ流通ヲ障礙スト云ヘリ  
東京深川清住町壹番地 十 指嚴 啟

加藤 謙 譯 新民社 發行  
商家 必用 記簿法  
初編 單認 二冊 既刻  
二編 復認 二冊 近刻  
原書ハ英國 チヤンブル氏 政則書中ノブックキー  
ピングクト云書ニテ彼ノ取引勘定ノ帳簿法ヲ委シ

ク記スモノナリ大方ノ諸君用務ノ暇マ日々坐右ノ  
友トシテ書中ノ要領ヲ閱シ此定則ヲ會得シ給ハハ  
其益アルヲ恐ラクハ少ナカラザラン

東京日本橋川瀬石町  
發兌書肆 村上勘兵衛白

大日本帝國政府ノ許可ヲ得テ資本金進テ八百方圓  
ヲ見届目今ニ丁方圓ト定メ白圓一株トシ株數三  
千二分賦シ第二國立銀行ヲ創立シ既ニ貳千三百五  
拾株ハ發起人其外ノ者ニテ入社シ残り六百五拾株  
則六萬五千圓ハ世人ノ請求ニ從ヒ橫濱本町三丁目  
元爲替會社ノ地所家作ヲ引請更ニ銀行本店ト定信  
州上田上州高崎ニ枝店ヲ置以テ世人ノ便益ヲ謀正  
經ノ事業ニ基キ共同ノ實利ヲ與サン事ヲ發起セシ  
ニ付諸君余輩ニカヲ合セ心ヲ同シ此銀行ノ株主ニ  
加入シ共ニ世ノ浩益ヲ謀ラン事ヲ希望ス因テ四方  
有志ノ諸君ハ本月廿日ヨリ十一月三十日迄ニ第二  
國立銀行ハ願書ヲ差出シ給ハント云フ但加入ノ順  
序及銀行ノ事務ヲ知り給ハントハ別ニ株主募り方  
布告書アリ希望ニ任セ呈進スベシ

明治六年十月 橫濱 第二國立銀行  
發 原 善三郎 茂木惣兵衛  
起 吉田幸兵衛 金子平兵衛  
人 増田喜兵衛

桂濱島先生稿  
深澤斐澤先生書  
幼小學 近道 全一冊  
右は始め母説教三條の大旨を解き次母皇國の高山  
川邊の名寄せ并母世界地理學の荒増を記し末母は  
陽曆の劃方等方今開明の秋日用ゑべからざる文字  
を何母寄らざる撰筆し且書は斐澤先生の筆本  
れば習字手本母も兼備し小學入門の兒童母授は有  
益の珍書何卒御求高覽を希ふ

南傳馬町二丁目  
發兌書肆 又日堂 長岡屋新助

銀行發行紙幣引換方之儀ニ付本年八月日本  
官第三百四號ヲ以一般御布告相成居候處此度銀行  
條例之趣意ニ寄殊ニ東京大坂其左之場處々々へ別  
店ヲ開キ右引替之事務ハ都テ此別店ニテ取扱候旨  
今般紙幣之許可ヲ得候ニ付向後右引替方ハ都テ  
兩地新設候別店ニテ取扱可申ニ付銀行紙幣ノ兌換  
ヲ御望ノ方々ハ左之兩所へ御持參有之度此取廣ク  
公告仕候也

明治六年十月 第一國立銀行  
發行紙幣引替別店ノ場處  
東京 第一大區小十區海邊橋兜町  
大坂 東大區第十三區高麗橋通四丁目

報告

嚴母御搜索ありて其本人は相當の御處分あり度き  
なり

官許東京日々新聞

第五百五十號  
明治六年十二月五日 晴  
金曜日 寒暖計六十二度  
潮時滿 六時四十八分

淺州瓦町十六番地  
本局 日報社  
編輯者 岸田吟香  
印刷者 條野傳平















伊達彌助	足羽縣	日本琉球藩	福岡縣	福島縣	岐阜縣	茨城縣	犬上縣	鹿兒島縣	同	小倉縣	宮城縣	三重縣	武藏縣	額田縣	掛田縣	金花縣	大阪府	佐賀縣
進步賞牌 鹿紋草	雅致賞牌 雜品	有功賞牌 馬具	第七區	有功賞牌 銅青銅及金	表章 同斷	進步賞牌 鍊銅青銅	有功賞牌 金銀ノ細工物	進步賞牌 針金	有功賞牌 銅器	同	表章 金銀細工	有功賞牌 鍊銅青銅及金銀細工物	表章 同	表章 銅器	同	同	同	表章 金物細工
小林總齋	日本事務官	日本政府	高岡鑄造社中	西京 黃銅製造社中	石川縣六人	入間縣 膝折	東京製造品	同	同	日 本	京 都	小畑造齋	言 井	東京 孝 民	金屋五郎三郎	百瀬惣右衛門	中川淨益	

建築諸材	橫須賀造	船 所	有功證狀 磁器花瓶并器物東京陶器 畫工	進步證狀 陶器	表章 同	進步證狀 土器陶ノ茶器類	表章 土器陶	有功證狀 水晶色ヲ帶タル硝子硝子列品	表章 陶 岐阜縣 萬	有功證狀 花崗石 大理石	同 土器及茶碗	同 土器染付ハシ入レ	有功證狀 陶ノ	同	以下次號記ス
愛知縣	石川縣	鹿兒島縣	三重縣	三 重 縣	淡路三平	京都 粟田	同 五 條 阪	同 長 崎	同	同	同	同	同	同	同

淺州瓦町十六番地  
 本局 日報社  
 編輯者 岸田吟香  
 印刷者 條野傳平

伊達彌助	足羽縣	日本琉球藩	福岡縣	福島縣	岐阜縣	茨城縣	犬上縣	鹿兒島縣	同	小倉縣	宮城縣	三重縣	武藏縣	額田縣	掛田縣	金花縣	大阪府	佐賀縣
進步賞牌 鹿紋草	雅致賞牌 雜品	有功賞牌 馬具	第七區	有功賞牌 銅青銅及金	表章 同斷	進步賞牌 鍊銅青銅	有功賞牌 金銀ノ細工物	進步賞牌 針金	有功賞牌 銅器	同	表章 金銀細工	有功賞牌 鍊銅青銅及金銀細工物	表章 同	表章 銅器	同	同	同	表章 金物細工

物製造之備日本パピールエトワ  
 日本事務官  
 博士ワフ子ル  
 日本大森 海苔屋會社  
 日本富岡 紡績頭取  
 フルナー トハウル  
 同博覽會事務官付  
 グレーベン  
 同東京頭取  
 ミニルカカバル  
 名譽證狀 五 進步賞牌 四十二  
 有功證狀 八十 雅致賞牌 一

第五百五十一號  
 業ヲ卒ラシメ次ニ此學科ヲ透テ諸家ノ書類ヲ研究  
 セシム此外ニモ各科ノ書ヲ備ヘタルハ春ニ餘リ  
 ルハ益々博問ヲ期スベシ  
 入社入塾等ノ規則ハ總テ本塾ニ同シ  
 授業一課(一時間)ニ付 月謝 七十五錢  
 但シ二課ヲ學ブ者ハ一圓五十錢  
 書籍並ニ骨格等ハ望ニ任セテ之ヲ貸スベシ  
 東京三田二丁目慶應義塾  
 銀行發行紙幣引替方之儀ニ付本年八月廿日太政  
 官第二百四號ヲ以一般御布告相成候處此度銀行  
 條例之趣意ニ寄殊ニ東京大坂共左之場處々々ハ別  
 店ヲ開キ右引替之事務ハ都テ此別店ニテ取扱候旨  
 今般紙幣之許可ヲ得候ニ付向後右引替方ハ都テ  
 兩地新設候別店ニテ取扱可申ニ付銀行紙幣ノ兌換  
 ナ御望ノ方々ハ左之兩所へ御持參有之度此段廣ク  
 公告仕候也  
 明治六年七月 第一國立銀行  
 發行紙幣引替別店ノ場處







昨日記載セシ博覽會褒賞表ノ續キ

Table of exhibition awards (褒賞表) listing categories like '第十區' (District 10), '第十一區' (District 11), and '第十二區' (District 12), with recipients and their respective works.

Table of exhibition awards (褒賞表) continuing from the previous section, listing categories like '第十四區' (District 14), '第十七區' (District 17), and '第十八區' (District 18).

投書 (Letters) section containing various notices, announcements, and correspondence, including mentions of '日本大森海苔屋會社' and '東京第一區小十五區區立銀行'.

報告 (Reports)

此度我社中申合セ本則ノ傍ニ醫學ノ一科ヲ設ケ...

豫科 (Preparatory Course) listing subjects like 解剖書 (Anatomy), 原病書 (Pathology), etc.

内科書 (Internal Medicine) listing subjects like ハルツホルン (Hartshorn), 外科書 (Surgery), etc.

右本科ノ分ハ先ツ(ハルツホルン)ノ書ヲ以テ其...

セシム此外ニモ各科ノ書ヲ備ヘタレバ春ニ...

ルハ益々博覽期ニ至ルベシ

入社入塾等ノ規則ハ總テ本塾ニ同シ

授業一課(一時間)ニ付 月謝 七十五錢

但シ二課ヲ學ブ者ハ一圓五十錢

書籍並ニ骨格等ハ望ニ任セテ之ヲ貸スベシ

銀行發行券引換方之儀ニ付本年八月廿日大改

宮第三百四號ヲ以テ一般御布告相成候處此度銀行

條例之趣意ニ寄テ東京大坂其左之場處々々(別

店ヲ開キ右引替之事務ハ都テ此別店ニテ取扱候者

今般紙幣之許可ヲ得候ニ付向後右引替方ハ都テ

兩地新設候別店ニテ取扱可申ニ付銀行紙幣ノ兌換

ヲ御望ノ方々ハ左之兩所へ御持參有之度此段廣ク

公告仕候也

明治六年七月 第一區立銀行

發行紙幣引替別店ノ場處

東京 第一大區小十五區區立銀行

大坂 東大區第十三區區立銀行

桂澤島先生編

深澤澤先生書

童幼小學近道 全一冊

右は始め母説教三條の大旨を解き次母皇國の高山

川澤の名寄せ并母世界地理學の荒指を記し未母は

陽曆の劃方等方今開明の秋日用欠べからざる文字

を何母寄らば撰準し五字七字の假名文章母綴專ら

幼童の暗誦し易きを旨とし且書は深澤澤先生の筆

札は習字手本母も兼備し小學入門の兒童母授け有

益の珍書故何卒御求高覽を希ふ

發兌書肆 南傳馬町一丁目 又日堂 長岡屋新助

クニ雞賣物アリ御好 御方ハ一番町八番地へ御

水車ヲ希フ

淺艸瓦町十六番地

本局 日報社

編輯者 岸田吟香

印刷者 條野傳平

郵便報知新聞 每日刊行

神官月次祭幣帛發遣 明正天皇

御祭日

來明治七年徵兵召集儀ハ東京名古塵大坂

兩度程掛鉄外...

第貳百七號

明治六年十二月四日 木曜日

寒暖 午前五時二十二分 午後五時四十六分











外國新報

本月一日出板シヤパンメイル新聞紙ヲ開スルニシスイレ地中海中ノヨリ報告ニ去ル十月一日午前五時同所ノ火山エトナ突然強烈ナル地震ト共ニ破裂シタリ其ノガ爲メ硫黄ノ損失ハ凡ソ三十萬磅一磅ハ我四圓ハナル由倫敦ヨリ電報アリタリト云フ

本年十月三十日桑港出板デイリーモーニングゴール新聞紙ニ曰ク新約克ニ於ケルミニストル則チ我カ大ノ年六十九歳ニシテ六歳ノ婦女ト婚姻セントセシニ彼ノ婦女此老人チ大ニ嫌ヒ婚セザリシ故彼ノ老人憤怒ノ餘リ自殺セントセシ由實ニ文明ノ國ニ於テアルマジキ事ナラズヤ

同新聞紙ニ曰ク倫敦ニ於ケル或ル商家ニ最モ大イナル猫アリテ其目方十九磅一磅ハ凡二十一匁六分ニシテ此惣量我アルト云フ實ニ無類無双ノ猫ナリト風説アル由

同新聞紙ニ曰ク此度英國ニ於テ獨逸人デウツナラントト名付タル甲鉄艦ヲ發明シタリ右ハ獨逸國中ニテモ最モ強固ナル船ナリト云フ由

諸縣報知

堺縣下大鳥郡船尾村外四村に盤亘せし舊官林字濱寺乃地所に付古今變遷ノ景況ノ古史舊記ニ照據審正せらるるに往昔元亨年中僧三光諱覺明ある者あり後醍醐帝ノ寵眷ニ蒙リ國師ノ號を賜り勅して同郡北高石村の地に一寺を開創し寺號を大雄寺と名け堂宇巍然封境廣大なりし由見へ其後廢墟存亡ノ年歴未

字濱寺の地に殘存し此地の字を濱寺と稱する者ハ則古の大雄寺に起るの所以なり地景ハ海濱として西ハ淡路島ニ面し北ハ播磨の連山と望み南ハ紀海阿波と遠眺し其地味ハ眞小砂として數千枚古松蒼々森々形容千狀萬態宛播の舞子濱に等しく風景最佳絶あり全地を測量するに東西平均八十間南北千貳百九十間餘此量外ニ全地接属の沙漠あり海濱として直ニ波限に至る此濱の總名を高志の濱と云持統帝の御宇以降古歌頗多し能く人口ノ膾炙する處なれば爰ニ贅せざり雖も多くの松の縁語ニ因るハ往昔より松樹存在せしと明にして今の濱寺ハ古松はなり如斯古來より聲譽賞翫の地なる故に其儘

保全すべきハ勿論の處只管官林御拂下の命令ノ拘泥し己ノ一般投票を施し先般御拂下濟になり買主頻に著手彼古松總數二千六百三十九本の内千七百九十一本を伐木し漸八百四十八本殘木有り暫時として悉皆伐盡に至り實ニ愛觀ノ地景乍ら渺々乃荒蕪と變し衆人乃望を失する必然として惜嘆の事情有りし處既ニ當七月荒蕪地并官林御拂下止絶の命令有り最モ是所置濟の分迄ニ差留らるる儀にあらざると雖も右ハ未だ伐木中殊に地所年賦代金も收入相濟ざる儀なれば旁以既往に遡り止絶の命令に基き是迄の伐木ハ度外に置き殘木を全存せハ古にハ劣ると雖も全くの地景を失ふに有らざるとなると買主として先づ伐木を留められ殘木の價金を買主ニ還與し地所代年賦金ハ斷然御取消を以て公園となし人民遊觀の地として永く全存せハ衆人の望を失はしめざるのならば是名所故蹟と愛護するの情實も買主ハ仍て情願の通御開濟ニ相成度との事堺縣令より伺はしし由或人來て話せり嗚呼高志の濱一朝斧斤を逞ふ古松二千六百三十九株を得る益ありといへどもおもふも縣下一炊の煙となす足らざれば僅かにも殘松ありハ勝地存せり而して公園とせんを圖る有難き事とおもひし 礫川生

投書

曩ノ第五百十一号新聞紙中陸奥國鏡湖花隱翁の投書と載られて秋田の人佐藤信淵翁の土性辨等の書未だ世に施行せざるを歎せり此翁ハ佐藤氏と同一ノ實際有用の學に志厚きを有る方今物産日に開け人工月に盛にして所謂開物成務の政今日に在て大に起る我邦元來氣節中正土地膏腴天然の産物にして人力を借らざして成るもの多し是を以て人々其豐沃を頼んで未だ人事を尽すに至らず古人云く赤地の民ハ財多しと蓋し其勤苦力を尽すを以て能く其財を生ずるなり沃土の民にして能く其財を用る赤土の民の如くならしめハ其財を生ずる果して如何とや是れ植物土産の學講せざるべからざる所以なり佐藤氏ハ才能多藝之士にして造船巧火の術に至るまで精究實業者と所の書數十部あり然も艦砲の事ハ西洋の術學大に開けし故翁の書昔に功ありと雖も今ハ必しも須用と爲さず獨り物産學に至る昔ハ人の用ひしもの寡しと雖も今日ハ缺くべからざる大必用の書あり就中土性辨の如きハ最モ第一の要書として一部乃再貢と云ふ可ならん予己に之を活版上せ裝册正に成れり今續て草木六部耕種法培養秘録等の書其他堤防溝瀆志の属に及ハんとす適々花陰翁の投書を讀み其先子ハ心得るを悦び且佐藤翁の知己少なきを哀し并て牧民經世の君子と自耕力食の農夫に告ぐ 山口縣下周防國富海書肆起晋堂主人

貴社新聞百七十六號島村氏の投書に皇國人民頭髮一樣ならざ其上田夫野婦ハ手拭と冠も髮習と憂ひ帽子を以て冠せんとを望めり又百九十二號を閱するに新潟花街八番町の住無枝園ふる者ことと論して島村氏ハ左袒すどあり只帽子を以て替るハ非なりと駁せり余以謂帽子を以て替るとよしと其帽子の製や慈姑莖或ハ自由頭或ハ一ツベツハイ此異頭を容る能ハざ容れざれば期せざして短髮となるハ又手拭と冠るの髮習も從て絶つハ聖人利身謂之服便事謂之禮夫進退之節衣服之制者所以齊常民也故人民帽子を冠るとを政府令せんを余も願ふところあり某氏の説や喋々論して以て決せり後言に曰我新瀉の如き令公下車より朝に令せハ夕に行ハれ夕ニ諭せハ朝に化す更ニ異頭なる者なしと噫吾田ハ水を引くの甚過り彼令公ハ我令公に同じく皆悉く上天憲を握り下四民を撫育す誰かこれを間然するなり然りと雖も國ニ四達あり遑暇あり民ニ賢あり愚あり賢なる民や何る諭しを待たん愚なる民や懇切に説諭すといへども馬耳風の輩尠ならず依て縣官を如る兩部の教官及び區戸長より教諭するハ勿論加之帽子を冠るの令を以てせば一層の裨益あるべしと余ハ井底の臆斷を以て貴社を煩ハシマ廣く江湖の諸彦に質す 遠江國豊田郡向笠郷ニ笠着て苦樂す 一寒生上野如清識

本局 報知社 編輯 岡 敬孝 吉田 増五郎







